

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471500320
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	湯河原温泉 ケアセンターそよ風
訪問調査日	平成20年1月23日
評価確定日	平成20年3月14日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1471500320		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	湯河原温泉 ケアセンターそよ風		
所在地 (電話番号)	神奈川県足柄下郡宮上771-24 (電話) 0465-60-0333		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(20年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤22人, 非常勤3人, 常勤換算19.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 1階 ~ 2階 部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(220,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(1月8日現在)

利用者人数	23 名	男性	4 名	女性	19 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熱海温泉クリニック、熱海歯科クリニック、湯河原厚生年金病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは湯河原温泉街を抜けた静かな山あいの緑豊かな環境のなかにあり、海が見える眺望が心地よい。敷地内に竹林や梅の木などがあり、季節を感じ取ることができる。入浴は、かけ流しの天然温泉を楽しみながら利用している。管理者は職員育成に配慮し、法人内・外の研修に職員を順次参加させている。また、法人内の湯河原、三島、沼津の3事業所で毎月1回情報交換を行い、相互に連携しながら利用者への安定した介護サービスの提供に努めている。地域や事業所の行事の際に地域や家族との交流を深めている。地域の祭りでは山車が事業の庭に立ち寄ってくれている。事業所の納涼祭には地域の方や家族が参加し、食事やカラオケを利用者と一緒に楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は職員会議で周知している。前回の外部評価では要改善点は無かった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は常勤職員全員で内容を検討し、各ユニットの責任者が作成している。自己評価の内容は外部評価と一緒に各ユニットの入り口に置いて自由に閲覧出来るようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 第5回目の運営推進会議を2月に予定している。会議は市の職員、地域の老人会、家族代表、管理者等で構成されている。会議では事業所側の利用者生活状況や行事計画などの報告と共に、各委員とサービス内容についての意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には職員が必ず声かけをし、玄関には意見箱を設置している。家族会は年に3回、5月のバーベキュー、納涼祭、クリスマス会の時に開催している。「そよ風に利用者の自筆の手紙なども載せて欲しい」などの家族の要望・提案を支援活動に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町主催の敬老会の諸行事に参加している。地域の祭りでは山車が事業所内の庭に立ち寄っている。事業所の納涼祭やバーベキューなどの行事には、地域の方や家族が参加し一緒に楽しんでいる。毎年秋には近隣の高校生がホームを訪れ、エイサー演舞を披露してくれる。定期的なボランティアの訪問もある。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」を基本理念としている。基本理念と共に自立支援など5項目の介護サービス基本方針と事故防止など3項目の品質方針を併せて「そよ風憲章」として制定している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝礼で職員と一緒に基本理念を唱和し、内容を共有している。日々の申し送りノートの表紙裏に基本理念のコピーを貼って職員に周知している。基本理念はケースに入れて事務室に見やすく掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の敬老会の諸行事に参加している。地域の祭りでは山車が事業所内の庭に立ち寄っている。事業所の納涼祭やバーベキューなどの行事には地域の方や家族が参加し一緒に楽しんでいる。毎年秋には近隣の高校性が訪れ、エイサー演舞を披露してくれる。定期的なボランティアの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は常勤職員全員で内容を検討し、各ユニットの責任者が作成している。自己評価の内容は外部評価と一緒に各ユニットの入り口に置いて自由に閲覧出来るようにしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第5回目の運営推進会議を2月に予定している。会議は市の職員、地域の老人会、家族代表、管理者等で構成されている。会議では事業所側からの利用者生活状況や行事計画などの報告と共に、各委員とサービス内容についての意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	湯河原町にあるグループホームは当事業所1ヶ所で、町の担当窓口と電話や書類提出時に状況報告や意見交換をしている。町の事業者連絡会議(ケアマネ会議)で情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「そよ風便り」を作成し、利用者の生活状況を写真と手紙で家族に報告している。現金出納帳は領収書を添付して「そよ風便り」に同封している。また、写真を主とした「そよ風通信」を年に2回発行し、事業所の様子や職員の入退職を家族に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には職員が必ず声かけをし、玄関には意見箱を設置している。家族会は年に3回、5月のバーベキュー、納涼祭、クリスマス会の時に開催している。「そよ風便り」に利用者の自筆の手紙なども載せて欲しいなどの家族の要望・提案に応えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員のストレス、利用者への影響も考慮しながら、各ユニット間でケアの質を保てるようバランスの取れた職員配置を心がけている。法人内の他の事業所との連携やパート採用で職員の勤務体制は確保している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県のグループホーム協議会、町主催の研修会や法人内の研修会に職員を順次派遣している。研修を受講した職員は研修報告書を作成し、職員全員に回覧している。また、職員の介護福祉士などの資格取得は事業所として支援・協力している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の同業者会議(ケアマネ会議)でアンケートを実施したり、施設としての役割などを話し合っている。厚生年金病院主催で2ヶ月に1回開催される勉強会に参加している。法人内で、湯河原、三島、沼津の3事業所が東海地区第2ブロックとして毎月1回ブロック会議で情報交換を行い相互に連携している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事業所の見学、体験入居を受け入れている。併設の認知症対応型通所介護を、1回は無料で体験利用(食事は実費)できる。利用者本人の同意、家族の思いを重要と考え、見学や体験で意思を確認して話し合っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活歴や日々の関わりで利用者の「できること」「できないこと」を把握し支援している。洗濯物のたたみ、花への水やり、毎日の掃除など部分的な対応をお願いしている。絵の得意な利用者には節分の鬼をスケッチしてもらっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者との毎日の会話の中で利用者の要望や願望を把握し、記録している。利用者の要望や願望は申し送りなどの際に職員間で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>1週間から1ヶ月の時系列で利用者ができること、できないこと、訴えていること、居室でしていること等を職員が観察し、家族の要望も踏まえて個別の介護計画を作成している。介護計画は家族に提示し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に見直ししている。モニタリングは3ヶ月毎に行い、ケースカンファレンスは毎月実施している。利用者に変化があればその都度計画を見直し、家族にも連絡している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護を併設しており、グループホームと連携して利用者、家族を支援している。平成19年4月開所の「認知症対応型通所介護」は登録者3名で、月延べ20名が利用している。平成21年には「短期利用共同生活介護」を始めることを検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の利用については家族と相談している。熱海温泉クリニック等の医療機関を主治医としている。毎月、定期的にかかりつけ医で受診している。歯医師は、毎週訪問診療がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意思を確認している。利用者に医療行為がない限り入居継続可能である。重度化した場合の対応は、利用者の状況を見て、家族と相談しながら判断している。事業所としては出来る限りの支援をしていくことにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉遣いは特に注意している。利用者の居室は他人の家であり、居室へは必ずロックを確認してから入室している。また、生活日誌には、利用者が特定できるような記録は行っていない。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床などの時間は利用者のペースを優先している。毎日の健康体操、食事摂食量などは、無理強いしないように配慮している。利用者の状況を確認しながら、利用者のペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事をし、会話を楽しんでいる。職員は自分の食事をしながら利用者の食事を刻むなどさりげない支援をしている。利用者と職員の誕生日には、各ユニットで材料を工夫し特別食メニューを提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週1度の消毒日以外、毎日入浴可能である。入浴は天然温泉かけ流しが楽しめる。入浴時間、温度などは利用者の意向を確認して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の広い庭には家庭菜園があり、利用者が職員と一緒にトマト、じゃがいも等を栽培している。庭にはチューリップの球根も植えてあり、春の花を楽しみにしている。敷地内に竹林がありタケノコが採れる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には職員と一緒に花摘みや散歩に出かけている。ユニット毎に湯河原梅園やさつきの里へ花見に外出している。箱根に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外に出てしまう人が各ユニットに1名いるが、職員で情報を共有しながら見守っている。担当医の指示、家族の依頼があり、危険が予測される場合は家族の同意を得て対応することになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回の防災訓練を実施している。各ユニットで米10kg、水を一人につきペットボトル1本、缶詰などを確保している。今年から、地域の防災訓練に職員が参加することになっている。湯河原町とは「緊急時協力協定」を結んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作成し、バランスの摂れた食事を提供している。利用者の摂食量、水分摂取量は毎日把握し記録している。日々の水分摂取量が不足した時は、ゼリーを摂取するなど個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各ユニットの広い居間には、絵の得意な利用者の描いた絵画や家族から贈られた絵画・人形、廊下の掲示板には利用者の作品や季節感を取り入れた利用者手作りのカレンダーを飾っている。室内の床はクッション材を使用しており心地よい。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドやテレビ、利用者の使い慣れた小机や小物類、大切にしている家族の写真や位牌があり、利用者それぞれの落ち着いた居住空間になっている。居室は13.52㎡と広く、クローゼットも備えている。空調設備は全体と個別調整ができる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風
(ユニット名)	星 ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄下郡湯河原町宮上771-24
記入者名 (管理者)	森 香代子(管理者)
記入日	平成 20 年 1 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		グループホームの共用型としてデイサービスをH19/4月より開始した。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		申し送りノートの表紙の裏に運営理念のコピーを貼り、常に職員が目を通せるようにしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		必要があれば随時相談が出来るようになっている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		イベント時に来所された近隣の方から好評を頂いたので今後もいろいろ計画したいと思っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		祭り際には山車、みこしを招き入れて入居者の方にも楽しんでいただいている。施設内にある飲料販売機は地域の方に利用されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	H19年4月から認知症対応型のデイサービスを開始し、地域の方にご利用いただいている。災害発生時の緊急避難所としての協力協定を湯河原町と締結している。		グループホームとデイサービスの両方が地域の高齢者の方にとって喜ばれるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤職員全員で分担し、自己評価票を作成いたしました。また外部評価の結果をサービスの改善に活かせるように、会議を開いている。		外部評価を受けて指摘された改善点については、できるだけ速やかに実行に移していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議は、外部の意見を傾聴する良い機会とおもっている。又行政の意見もすぐに聞くことが出来、ご家族のご意見も参考にさせていただいて降ります。		その場で出た意見・報告は全員が文書回覧し共有できるようにしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の事業者連絡会に出席して随時情報交換をしている。又常に行政の窓口相談に行くようにしている。		連絡会で得た情報を基に、サービスの向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。		入居者様について成年後見制度の利用について行政が動かれる事例があり、学ぶ機会が得られました。今後も必要に応じて活用したいと思います。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等により他施設の虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		職員がゆとりを持って楽しく勤務することが出来るように配慮する。又、何気ない言葉の暴力に気をつける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を基に時間を掛けて説明を行い、納得をされてから契約を行っている。</p>	<p>もう少し分かり易い表現が出来ないか、運営側で検討している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中において、意見や不満が自由に言えるように職員は傾聴する姿勢に勤めている。又申し送りを必ずして周知している。家族の面会時は各自の居室で行いプライバシーを尊重している。</p>	<p>利用者の健康面で個別対応を必要と認められた方の居室に、特別工事をして、環境整備に尽力した。(北向きの部屋を二重窓にした)</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書発送時に、小口現金出納帳に領収書を添えて同封している。又、『そよ風便り』として写真と手紙を同封し暮らしぶりや健康状態について報告している。</p>	<p>年1から2回発行の写真を主とした『そよ風通信』を発行して事情所の様子、職員の入退職をお知らせしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置している。又家族会年3回開催し、ご意見を頂いている。</p>	<p>頂いたアドバイス・ご意見は可能な限り実行したいと思っています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議・ユニット長会議・ユニット会議・日常の対話において意見・提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>運営者が来所した時には、一般職員と話し合いの場を設けている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月シフトにて家族が受診に同行出来ない場合等を考慮して勤務調整に努めている。</p>	<p>人員不足の状態もあり、近隣のセンターから派遣応援をもらっている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の異動をせず、新人職員の補充や離職者以外はなるべく馴染みの職員にて対応している。</p>	<p>ケアの均一化を図るために利用者に影響のない範囲で異動も考えたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得に協力している。又希望者には計画作成者実践者研修など社内外の研修に職員を順番に派遣している。	無資格者の応募があったとき、助成制度を利用して資格を取っていただきたいと思っています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげている。又随時見学者を受け入れている。	CM連絡会を通じ勉強会に出席している。又情報交換の場ともなっている。グループホーム協議会の研修には順番で参加している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は職員の要望を直接支社長・ブロック長に話す機会を設けている。管理者は常に職員の様子に気を配っている。又チームケアの考えを徹底している。	電話による『心の健康相談室』を設置している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力を見強め得意分野の勤務を増やすなど、働く気力・向上心に働きかけるシフト作りに努めている。	全社的視野において本人が希望すれば適材適所の異動も可能である。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと傾聴・共感をすることにより安心していただく。	本人のペースを次の言葉が出てくるまで待つことが大切である。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談室でご家族の思いを話していただき、決断の難しさに共感する。現状の認識をしていただく。	雑談を交えてお困りなのはどなたも同じということをお話していただく。皆様「そうですか」とホットされます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを把握した上で、いくつかの支援・サービスを説明する。		その方の条件に合ったサービスを提案するようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・お試し利用の機会を利用して、安心してサービスの利用が出来るよう努めている。		デイサービスから慣れていただくのが良いようです。一度で嫌になる方もいらっしゃると思います。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に家族のような気持ちで接し、互いの『出来る事』『出来ない事』を話し合い支えあえる関係作りを心がけ、ケアに当たっている。		現役の頃のお話を分かった上で、教えていただく機会を作るようにしています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。		ご家族からの情報を大切に、ご本人が家族の顔を見て顔がパツと輝くことをお話しています。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との状況等をアセスメントシート作成時に把握し、普段の生活のなかで自然な会話のなかに家族の話を盛り込み、より良い関係が築けるよう支援している。		ご家族が来所時は必ず声をかけてちょっとしたことでもお話するようにしています。ご家族はお知りになりたいようです。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛の手紙の代読・代筆をし、馴染みの方々との交流が続くよう努めている。		馴染みの場所の訪問の、地域密着となった今は行き易くなると思われます。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格と特徴を理解し、利用者間にスタッフが入り、会話や作業等皆で参加できるよう配慮している。		仲間意識が強く、入院者を気遣ったり、退院を諸手をあげて喜ばれます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も季節の便りにより自然な流れを維持している。		退去後もイベントの案内・時折のお見舞い等をしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にゆっくり向き合ってお気持ちをお聞きするよう努めている。又毎日のケア中の要望・願望を記録して把握に努めている。		月1回のチームカンファレンスを実施して、モニタリングに努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし方の強制はしていません。食事においても好み・習慣を大切に個別対応をしている。		ご家族からの情報の提供を頂くようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日朝礼において夜勤者から報告を受け、現状把握に努めている。		ケアに入ることによって直接得られる情報が役立ちます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思確認・ご家族の思い・要望・スタッフミーティング等により介護計画を作成している。その原案をご家族に提示してご意見を伺うようにしている。		定期的にモニタリングの実施。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調・身体状況の変化が認められるときは、現状に即した計画に変更している。又その都度申し送り時に指示を出すこともある。		毎日が現状見直しの機会と思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態・様子・個別ケアの内容を、スタッフ間の申し送りノートと個別記録用のカードインデックスに記録し活かしている。		運営者の方で新しい書式を作っているが、現在のものが使い易いと思われま。現場サイド優先としています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームと認知デイを利用してご本人・ご家族の要望に対応出来るよう支援していきます。		今後は短期利用も検討していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。地域自治体主催の敬老会の催しには地区老人会と連携をとっている。		今後はもっと出掛ける方向に持っていきたい。外出ボランティアが欲しいです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域においてより適切な介護が受けられるよう、病院・療養型病院・他施設と常に連絡を取り合い、一番ふさわしいところを選ぶようにしている。		地域においてネットワークを作りたいと思っている。すでに意見交換をしているところもある。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所相談を通じて権利擁護や退居後の生活において協働できている。		12月に事例がありました。今後も大切な問題と思われま。す。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談しながらかかりつけ医を決めていますが、病状によっては最適の医療が受けられるよう主治医と連絡・相談を密にしています。		専門医にかかるタイミングを相談し易い関係が築かれています。又Drも責任を持って対応して下さっています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携先に神経内科の専門医がおり、掛かり付け医として、相談・診断・治療を受けている。携帯電話を教えてもらっている。		Drの治療の基、生活が安定しているので静かな落ち着いた環境が保たれています。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師に相談して、指示を頂いている。		看護師の募集をずっとかけているが応募者がいないのが残念です。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のソーシャルワーカーと連絡を密にし、早期退院に向けて病状や時期の見通しなどの把握に努めている。		認知症の方の慣れない入院生活は病院側も大変らしく早期退院が多いです。可能な限り対応しています。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にご家族の意思を確認している。医師には口頭でその旨伝えられるよう準備している。又スタッフ間で情報の共有をしている。		定期受診時、ご家族と共に医師の説明・生活上の指導を頂き日常生活に活かせるよう取り組んでいる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	住み慣れた環境で終末期を送りたいというご本人・ご家族の意思を尊重し、医療行為の発生までの期間最善のケアをする為の、医師・家族・スタッフのチーム間の支援体制が出来ている。		ご本人の思いを大切に最大限できることをしましょう。という全員の思いがある。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご自宅への退居の場合は、担当CM・ご家族・サービス担当者と十分に引き継ぎます。その他施設に行かれるときには、情報交換を十分に行います。ご家族の了解が得られれば面会にもいっています。		下見が出来る方には出掛けて見て安心していただいています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けには注意をし、呼びかけも本人の希望する呼び方で呼んでいる。部屋は全員個室でノックをして入室している。入浴も希望により対応している。関係機関へ提供する個人情報については同意書を頂いている。</p>	<p>グループで暮らす中で一人一人に気配りをしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>レク・食事・飲み物など選択できるような機会を作って、利用者の意思を尊重している。</p>	<p>好き嫌いがある方には栄養バランスを考慮して支援していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の入居者様の状況により業務を進めるようにしています。</p>	<p>毎日行っている健康体操も無理強いはないようにしている。食事の全量摂取を無理強いしていません。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>現在2ヶ月に1度訪問理美容が来ているが、希望しない方もいます。町の理美容院を希望される方にはお連れしています。</p>	<p>外出時ご家族がお連れして行きつけのお店に行っている方もいます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立の話をしながらか調理をしたり、できることを手伝っていただいたりしています。配膳を得意とする肩もいます。職員と一緒に食事しながらバランスの良い摂取に声かけしています。</p>	<p>特別メニューの日を少なくとも月1回は作って全員で食事を楽しんでいます。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>10時のお茶の時間には個々に好きな飲み物をお聞きしてお出ししています。3時のおやつは相談しながらなるべく手作りするようになっています。</p>	<p>水分量を確保する為好きな飲み物・ポカリゼリー・茶寒天といろいろ考えてお出ししています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。日中は全員トイレにて排泄できるよう、支援している。		失禁の対応は不安や羞恥心・プライバシーに配慮して行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当施設は源泉かけ流しが自慢のお風呂なので、温泉入浴を楽しめるよう一人一人入浴時間・温度など配慮しながら支援している。		毎日利用者の意向・希望を確認している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		昼間計民されている時間が多い方には生活リズム作りを行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ、後片付け、洗濯もたたみや洗濯物干しなど一人一人に合わせて、出来る事・出来ない事・得意なことを行っている。		楽しみや役割などその人らしさをもっと発揮できる場面を作りたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフで金銭管理は行っているが、希望されかつ自己管理できる利用者は財布を持ち、買物に同行された時などご自分で購入されている。		自己管理できない利用者にも欲しい物があると訴えられた時には、一緒に買い物に行き、選んでいただいています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、スタッフが付き添いお花を摘みに散歩に行ったり、外で草むしりをしたいと訴える利用者様と一緒に草むしりをしたりしています。		季節が良くなれば庭やプランターで野菜や花を作るのが忙しくなります。。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画に基づいて、桜の花見・花火大会・湯河原やっさ祭り・菊花展など一緒に出掛けています。		個別対応にはご家族のご協力もお願いしながら、機会を築きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の訴えがあった場合は、プライバシーやご家族の意向を考慮しながら支援を行っている。		相手が出られたところで電話機を本人に渡しています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人・友人等が見えたときには、利用者の個室でゆっくりお話をさせていただける環境作りを心掛けている。又湯茶の接待をしている。		皆様とても楽しみにされています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。但し担当医・家族の指示・依頼があり危険が予測される場合においては、家族の同意の上対応することになっている。		転倒骨折が予測されている方に関してどこまで可能か関係者で十分話し合っています。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特に不穩になる要素も少なく施錠はしていない。		夜間利用者が落ち着けるからと内側から施錠することはありません。安否確認の時は職員が開けさせてもらっています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に把握できる場所で業務に当たっている。居室に戻られる方がいれば巡視に周り、声かけ等行っている。		職員の頭の中に利用者のいる場所がいつも入っているように努め提案す。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤・刃物等の要注意物品はきちんと保管している。		利用者がはさみや針等使用する際は職員が必ず確認、付き添い管理・保管している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルがあり、その方に合った介助を行っている。		その方の体調・機能に合った介護を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルがあり、状況に応じて対応出来るよう全職員が熟知している。		全職員、普通救急救命講習を受講している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時必要な物品 防空頭巾・懐中電灯など)又食料・水など消防と相談して準備している。		地震のとき避難場所が2キロ離れている為、移動の難しい高齢者には困難なので、水・食料・排泄・薬・生活物資を少なくとも3日分確保して置くように指導されています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	居室内での転倒の危険性について入居相談において説明をしている。又見守りを受けての生活の中でのリスクについて十分話し合っている。		転倒骨折が一番の心配です。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定に始まり、日勤、夜勤者にて生活記録・申し送りノートに特記事項・状態変化なども記入、出勤時に必ず読むことになっている。		食事量・水分量・入浴時の体の変化などに注意し、すぐ報告している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人別にファイルに閉じ、いつでも見られるように管理し、Dr指示にて服薬している。		受診時常に処方箋の入れ替えを行い、薬が替わってもわかり易いように管理している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		水分摂取の少ない方にはポカリゼリーを作って対応している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯洗浄等口腔ケアを行い、外出から帰った時はイソジンで嗽をしている		週1回の訪問歯科により、義歯チェック・口腔チェックに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後摂取量の確認をしている。水分は1日を通じて記録し、足りない特は一人一人に対応しています。		利用者が水分を求められた時はその都度記録します。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ったら、イソジン嗽・石鹸手洗いの実施。トイレ後手洗い・ヒビコールで消毒の実施。食品の加熱する。玄関にヒビコールスプレーの設置。トイレ介助時ディスポ手袋・ウエットタオルの使用。		調理時には清潔なエプロンの使用。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒、まな板の肉・野菜の分離。食品の購入は2～3日おきにおこない、肉・魚は専門店より届くようになっています。賞味期限のチェックも行っています。		冷蔵庫を過信せず、食品の保管保存に十分注意しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に利用者の家にあったピアノを置いている。面会にこられた方や職員の知り合いなどが時々弾きにこられます。玄関の外にはプランターを置き利用者が水遣りをしています。		緑豊かな環境の中にある施設なので、四季折々の木々の楽しみがあります。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として居心地に良い空間作りを心がけています。季節を感じられる装飾をしたり、皆様の好きな音楽を食事の時かけたりしています。		嫌なおいがないように気をつけています。お花は皆大好きで会話が弾みます。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりくつろいだり、新聞を読んだり、一緒にテレビを観て過ごされています。利用者が手作りの作品を飾っています。		身体状況に応じた移動を考慮してテーブル・椅子を配置しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品・装飾品などが持ち込 まれ、安心して『自分の部屋』として過ごせる場所になってい る。		入居者各自に合わせた居室の環境作りに勤めている。又 じゅうたんを敷いて滑らぬようにしています。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気に努め、冷暖房は冷やしすぎ・暖めすぎに気をつけてこ まめに調整しています。		乾燥時には加湿器を使用するなど配慮をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	床をクッションフロアを使用、移動区間には手すりの設置、 ベッド移動ができる大型のエレベーターが設置されている。		床が滑らないようにじゅうたんに敷いたりして転倒防止の配 慮をしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	毎日の会話の中で、日付・曜日をさりげなく言うように心がけ、 五感を刺激するような働きかけを日常生活に中で行っていま す。		それぞれとコミュニケーションをとり現在の日常生活を維持 し、自然な形で継続できるよう努める。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い庭を 生かしてバーベキュー楽しんだり・庭の枯れ木を燃やして 焼き芋を楽しみました。夏には地域の方々と納涼祭を楽しん でいます。		庭の芝生の整備が出来るともっと良いと思います。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人生の最終章において、それぞれが満足のいく暮らしが出来るよう職員一同精一杯の思いをもって毎日のケアに取り組んでいます。後で後悔しないために今日を大切に、利

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	湯河原温泉ケアセンターそよ風
(ユニット名)	月 ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄下郡湯河原町宮上771-24
記入者名 (管理者)	林田 信二(計画担当者・ユニット長)
記入日	平成 20 年 1 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		入居者の家族や地域の方を招き地域推進委員会を定期的に行っている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の朝礼で運営理念を復唱し、毎月の売上目標などは月一回の会議にて報告周知している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居契約時に説明し玄関の見易い所に明示している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近所の方々が見学に来たり、地域の祭りの尾t期は町内会の御輿や山車等見せに来て下さる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事への参加や見学はレクの一環として参加している。又、年に二度の防災訓練には消防署に協力を頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム機能を地域に還元している事例が1つ以上ある。(介護の相談を受けるなど)		実習生を受け入れる準備がある、又、常時ボランティア受け入れの体制作りが出来ている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に複数職員が参加している事、自己評価・外部評価結果を職員に報告している。		会議等を開き評価を行っており、会議に出席出来なかったスタッフは記録を確認し、スタッフ全体に周知している。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会を発足し、定期的に運営推進委員会を開催している。		運営推進会議の様子はスタッフにも会議録として回覧、周知している。必要があればユニットごとに会議を開きスタッフの意見を聞いている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携や調整をしている。		もっと町の事業所連絡会議に参加し情報交換をしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社内や地域で開催される研修等の参加		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議等を開催し利用者について話し合いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書に明示され、家族に説明している。ホーム内に掲示している。		入居契約時に説明し玄関の見易い所に明示している。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書等に明示している。ホーム内の目に付く所に掲示している。		重要事項説明書に書かれている。、又、口頭にて説明し伝えている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	年2回以上家族に対し入居者の生活や暮らしぶりについて情報提供を行っている。		毎月『そよ風便り』というお手紙にてホームでの様子を書き、その手紙には写真を添付して郵送している。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族がいつでも意見や希望をいえる様働きかけている。訪問時の声掛け・連絡ノート)		苦情があった際は原因を探り問題を検討し回答して、サービスの向上の取り組みを行っている。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ホーム運営にあたり職員の意見や提案を受ける仕組みがある。		採用時面接、入居申し込み相談には管理者と職員2名で対応している。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	職員の欠勤など緊急事態が発生した際の対応について仕組みがある。		イベント、受診日等、特別な予定がある日は日勤者を通常より増やす体制をとっている。又、緊急時対応の連絡網を作っている。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	離職などやむをえない事情については、利用者・家族に理解を得るよう説明し、ダメージ軽減に努めている。		ユニット間での職員移動を行う際には、該当職員をいどうにユニットの派遣するなどし、入居者が馴染める機会を早く作るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修が行われている事、複数職員が年1回以上、外部研修を受講し、研修報告をしている。	新人スタッフオリエンテーションを開催、新人教育をしたり、『認知症とは』の勉強会開いたりしている。又、外部研修への参加も積極的に行っている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の諸施設の理解や協力を得る為の対応や工夫が1つ以上ある。	地域の行事への参加や見学はレクの一環として参加している。又、町の事業所連絡会議に参加し、情報交換をしている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	組織的・意識的なストレス解消の為の仕組みがある。	親睦会やユニット同志の食事会等をも催しストレス解消する場を作っている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の向上心に配慮した研修等に参加し、スキルアップする機会を作っている。	努力・実績・勤務状況に応じて希望があれば正社員として雇用される制度を今後も維持していきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から聞ける事についてはよく聴き受け止める努力を怠っていない。	不安なこと・困っていること。求めていることを受け止め、チームケアに活かしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。	家族等の相談から得られたことを皆で共有し合い利用の際に家族の負担軽減を図れるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極めるよう努めている。		必要とされていることの支援をホーム内で可能な限り行っている。又、他(地域・医療機関など)と連携し対応出来る範囲を増やして生きたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用してくださるよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、たの入居者との交流の機会作りもさりげなく行っている。		家族等から頂く情報(本人の好きなことなど)の参考やコミュニケーションを重ねていながら、徐々に馴染み本人が安心できる居場所を見極めたい。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の掃除・食器洗い・洗濯物たたみなど手伝って頂き助けて頂いている。昔懐かしいおやつの作り方等教えて頂いている。		入居者本人から自発的にやりたいこと等があれば支援していく。又、一緒に行くことで支えあいを実現している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子・状況など家族に相談して協力していただいている。		瀬曲的に意見して下さる家族も多く、本人を支えるべく今後も理解協力を得ていくよう家族との関係構築に努めて生きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られた時には、日常の様子を話し、気軽に話せるよう働きかけている。		遠方の方に対しては定期的に連絡し、あまり来られない方には来て下さるようお願いしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人とふれ合ったり(面会)電話にて声を聞かれたりしてと交流が保たれている。入居者同士中の良い方の居室も訪れたりしている。		入居者に馴染みのあることや季節の慣わしなど、入居者に主体になってもらいながら行って行くよう支援に努めていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作る。社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		入居者同士がキッチンの手伝いや掃除など分担し助け合えるような場面を作ったり、仲の良い入居者同士が過ごせる様時間を作ったりして助け合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		サービス利用が終了しても、恒例のイベントに参加してくださった家族もあり、今後とも希望がある限り関係を断ち切らない関係を続けていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で思いや暮らし方の希望・意向を会話などコミュニケーションをとり伺っている。困難な場合はその方が出来ることややりたい事につながるような環境づくりをするよう努めている。		個々の生活パターンを大切にしている。塗り絵・貼り絵・散歩等の趣味を生かして暮らしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		歌が好きなお方にはレクリエーションの際に一緒に歌を唄ったり、料理のが好きな方が好きな方には食事の際にお手伝いをして頂いている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		口頭・記録による申し送りにての一人一人の状況把握が出来るように職員間でのコミュニケーションをとっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議を実施して検討している。会議に出席できなかった職員には会議録にての情報公開を行い、閲覧した場合には承認印を捺印することになっている。		ご本人が判断できる場合はご本人の希望を取り入れ作成したり、ご家族の意見も取り入れている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っている。入院などや新たに見直しが必要な時には状況に応じた介護計画を作成している。		ご本人が判断できる場合はご本人の希望を取り入れ作成したり、ご家族の意見も取り入れている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、カードックスにある個人の生活日誌に身体の変化等具体的に記録している。		カードックスの記録以外では申し送りノートや個人ファイルにて職員が情報を周知している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族が受け入れ易いサービスからなれていただいている。例えばデイサービスからグループホームに移るなど。		将来は皇室を利用して短期利用サービスも検討している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	散歩の途中でちょっと囲碁を差しに寄ってくださる方もいます。消防には防災訓練・救急救命講習などで交流があります。		今後は出て行く交流に積極的になりたいです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業者のサービスも本人に最適のものを紹介している。		CM連絡会で情報の交換をして、活用したい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	退所に当って地域包括センターと共に権利擁護にも協力した。		今後も重要な問題なので取り組んで生きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年一回以上、老人健康診査やそれに準じた健康診断を行う仕組みがある。		毎月一回以上は必ず、掛かりつけ病院を定期受診しており、健康診断も定期的にそこで行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月一回定期的に予約受診している。受診時は職員が同行し医師に相談したりして支援している。		診療時間以外でも電話相談をし支持を頂いている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院の看護師への相談等行っている。		看護職員採用に向け、募集広告を随時出している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院のための話し合いや協力を医療機関を行っている。		病院の相談員と蜜に連絡を取り積極的にお見舞いに行くように今後もして行く。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後の変化による、支援に向けて家族かかりつけ医と話し合い検討し方針を決定している。		事業所の出来る事、出来ない事についても家族に理解していただけるよう早期から話し合っ行ってきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の利用者であっても、出来ることの見極めをチームで行い支援している。又、かかりつけ医へ受診時、報告をし指導を受けている。		今後の変化、支援に向けて事業所ので出来る事、出来ない事を掛かり付け医と共に都度、話し合い検討準備する。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が「移り住むことのダメージ」を最小限に食い止める為十分な話し合いを行い、ご本人が暮らし易いようケアしている。		家族はもちろん、本人に関わる保健医療・福祉の関係者と十分な情報交換と話し合いを今後も行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。又、生活日誌に個人が特定できるような記録は行っていない。	プライバシーを損なうような対応、記録などないよう、スタッフ間でも周知している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者が自分で決めたり希望を表すことを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。選んでもらう場面を作る。選ぶのを待つ)	今日のおやつは何が食べたいですか、と伺い入居者が召し上りたい物を一緒に買いに行ったり、新聞チラシをみて食べたいものを選び召し上がって頂いている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	起床の遅い入居者には遅めの朝食にしたり寝られない入居者にはリビングにてテレビを観て過ごされる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者一人一人の希望に合わせて理美容院の利用を支援している(カット、パーマ、染め、セット等)又定期的に訪問理美容にて散髪する入居者も居られる。	入居者の希望に応じて美容院へお連れしている。外出等困難な方には定期的に来設する訪問理美容にて希望を伺い散髪して頂いている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	職員と一緒に食事をし、食べこぼしや食べ遊びをしてしまう方の介助をさりげなく行うようにしている。又、食事の盛り付け等にも工夫をし入居者に楽しく食事を召し上がって頂く様にしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物など、日常的に希望を伺い召し上がって頂いている。	誕生日会、クリスマス会、納涼祭などでは希望の飲食の他にお酒が好きな方は召し上がったりしておられる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを出来る限り使用しないで済むように入居者一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		24時間排泄チェック表記録にて一人一人の排泄コントロール把握し、誘導を行っている。体調により本人希望・同意を得てオムツをする時もあるが普段はオムツを使用していない。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人一人の希望に合わせくつろいだ入浴が出来るように支援している。時間帯、長さ、回数等)		入居者に入浴したい時間・入浴するかしないかの希望を伺い行っている。入浴時間等も本人の意志を尊重して入浴して頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、一日の生活リズム作りを通した安眠策を取っている。		夜間記録に睡眠状況を記入している。夜眠れるよう昼間は外出や運動を心掛けている。それでも浅眠が続くようなら主治医に相談することもある。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。(TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞)		洗濯物たたみや掃除機・食器拭き等得意分野をそれぞれ担当していただき毎日行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や力量に応じて支援している。		お小遣い程度のお金をご本人に渡し、自己管理している。管理できない方はこちらで管理しているが買物に出た際ご自分でレジをと通るようにしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がホーム内だけで過ごさず、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買物・散歩・近隣訪問・集会参加等)		日常的に外出を心掛けている散歩や買物も積極的に出かけ車椅子の方もドライブや外気浴を行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の行きたいところを本人・家族から把握しており訪問が実現できるよう支援している(ふるさと訪問・墓参り等)又、入居者や家族と相談し、協力して行事での外出の機会を作っている。		行きたいところを把握し、季節毎の行事を行っている(花見等)又、ふるさと訪問・墓参り・お祝い等家族と共に外出できるようにされ、実現できている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常低に利用できるようにプライバシーに配慮しつつ支援している。手紙や電話の利用の奨励・介助等)		電話を掛けたいといわれた時、職員が番号を回し本人に替わったりして利用している。手紙を書きたい出したいといわれた時、切手の購入やポストに入れてもらうことを支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ほぼ毎日のように面会に来てくださるご家族もおり『此处に来るのが楽しみなんです』との声を頂きました。		来易い雰囲気・歓迎関係の構築、湯茶の自由利用等家族の立場に立って家族の状況に合わせた対応や工夫を今後もしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行ってはいけない、しないですむ方法をユニット会議話し合っており行っていない。		身体拘束は行わないことをすべての職員が認識しており実践している。又、新規職員へも随時伝えていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ施錠のない生活を心掛けているが徘徊がある方がいるため、ユニットの玄関となるドアを施錠することがある、ドア付近に階段があり危険と判断される為)		鍵をかける場合はその根拠が明白で理由を家族に話している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼、夜共に記録等入居者の様子が把握できる位置にて行っている。		今・居室で過ごされている方、夜間帯は巡視にて安全確認している。又、夜間帯は職員間でも安全確認している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務室にて管理し、包丁、洗剤等はキッチン内に置き、職員がキッチン内に居ない時や夜間は施錠している。		注意の必要な物品を一律になくすことではなく、職員間での認識を高める工夫をして行く。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニット会議・全体会議・勉強会・研修等により知識を得る機会を設けている。		入居一人一人の状態に応じた防止策を今後もユニット会議等で検討し行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月に一度のユニット会議にて入居者の状況や今後起こりうる事柄、リスクマネジメントを周知している。突然のけがや発作についての緊急対応についてもユニット内において連絡網などにより確認が取れている。		勉強会などで初期対応について話し合っている。又、応急手当については消防署の方を招き訓練を行った。今後も引き続き実施して行く。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施し、消防署への届け出を行っている。又、消防署の方、監修の下、消化・避難訓練を行い、指導して頂いている。		各ユニットにて火気関係自主点検表にて毎日チェックしてもらう事により、認識を高めていくよう努めている。又、各ユニットから選出した防災委員による定期的なミーティングで災害対策を検討していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約書、注意事項説明書などにより入居契約時に口頭・文書にて説明し同意を得て署名、押印していただいている。		日常生活の中で発現した事柄などは家族に連絡を入れ相談等行っている。記録、申し送りにて職員も周知している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックにて体調確認を行っている、顔色や様子、行動などサインを発見し速やかにバイタルチェックを行い対応する。また、記録、申し送りにて情報共有を行っている。		体調に変化が見られた際、医療受診している。又、対応困難な場合には救急要請している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の説明書を薬箱に貼り、いつでも目が通せるようになっている、以前の処方箋は個人ファイルに保管している。配役のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		誤薬が起きた際にはユニット間で話し合い再発防止に努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排泄チェック表にて把握し便秘がちの方には運動したり、腹部マッサージを行う等日課としている。		便秘症状が続く入居者への対応については主治医への報告、相談にて指導を受けている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口腔内の汚れや臭いが生じないよう、清潔を日常的に支援している。歯磨き・入れ歯の手入れ・出血や炎症チェック)		朝、夕は必ず口腔ケアをして頂き、週に一度の訪問歯科で口腔ケアや義歯チェックをされている方もいる、又、歯科衛生士による講習等も行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したカロリー計算に基づき調理し、水分チェック表にて毎日のトータルを把握し記録している。		医師により食事・水分について指示を受けている。入居者へは個別にて、減塩・減糖するなど対応している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがあり、皆で確認している。又、年に一度、インフルエンザの予防接種を入居者・職員共に行っている。		入居者・職員共に手洗い、嗽を励行している。日常で使用する物(マグカップ・歯磨き用コップ)、台所用品等殺菌消毒を行っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については賞味期限に注意し購入、使用している。魚・野菜・肉は必要分、地域の店に注文している。布巾・まな板等熱湯、ハイター消毒を毎日行い、洗濯機のゴミ掃除も毎日行っている。		食品・布巾・包丁・まな板・冷蔵庫・洗濯機等ホーム内の清潔、衛生を保持していくことに努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	威圧感を与えず、入居者や家族が入り易く、地域住民の方も尋ね易い様、玄関周りや建物の周囲に家庭的な雰囲気作り(草花を植える・親しみ易い看板)をしている。		建物のいる愚痴には花を植えてあり、玄関前にプランターを置いて家庭的な雰囲気作りをしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間はいずれも家庭的な雰囲気があり調度や設備、物品や装飾も家庭的である。		リビング・廊下にはやさしい色使いの絵・入居者が作成した作品・季節の花などを飾っている。又、空間内は木目が多く家庭的な作りになっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、入居者が独りになったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。		居間のソファに腰掛けてくつろぎながらTVをご覧になったり、テーブル席に座って気の合う方々が談笑したりと個々に確保されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に仏壇を持ち込まれている方や今までに使い慣れている家具等持ち込まれ使用するなど自身が安心して暮らせるような場所になるように工夫している。		使い慣れた生活用品・装飾品の他に家族が持ってこられたものや写真、本人が作った作品などを飾っている方もおられる。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、起床時に入居者に窓を開けて頂いたり、朝の居室掃除する際に窓を開けて換気をしている。冷暖房の調節は入居者の希望や室温に応じて行っている。		入居者の状況に合わせた室温調節をしている。又、冬場など空気乾燥の時期には加湿器を使用しフロア湿度の調整を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン内は火傷をしない様レンジ台はIHを使用している。浴槽内等、廊下・トイレにもスロープ・手摺が設備されている。物干し等も取り込み易い様に調整している。		入居者一人一人の身体機能の低下を補う設備を使用し安全で自立して生活して頂ける様声掛けしたり、見守りして行く。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援の為に出来る事、出来そうな事に関しては、手や口を出さず見守ったり、一緒に行っている。		『 さんお願いしてもよろしいですか。』伺ってから手伝って頂き、それが自信となり、お一人でする事につながるような、場面・環境づくりをしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	樹木や季節の花を植えて置いたりしている。又、庭の畑にて家庭菜園を入居者と楽しんでいる。		今後も入居者が楽しんだり活動できる空間・環境作りに努めていきたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

時間の決まりに縛られないで、個人の思いを大切に自由に暮らしていただけるよう支援している。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	湯河原温泉ケアセンター そよ風
(ユニット名)	花 ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄下郡湯河原町宮上771 - 24
記入者名 (管理者)	松根 佳子(計画担当者・ユニット長)
記入日	平成 20 年 1 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事務所内に運営理念掲げ、理念の実践に取り組んでいる。 そよ風全体の理念である為、事業所、または、ユニットでの理念を作り実践に向けて取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		朝礼にて「そよ風憲章」唱和し職員の意識を高めている。 同上
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		契約時にご家族に説明をしている。又、家族会や運営推進会議の開催。 行事開催時、近所へ案内を配り参加を促し、当事業所を地域の人に理解してもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近所を散歩し、挨拶やお話等声を掛け合っている。又、納涼祭開催時、近所の方を招き交流を深めている。 回覧板をまわす様にしてもらう。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		祭りの際、山車が立ち寄ってくださったり「やっさ踊り」見物に出掛けている。又、町主催の敬老会への参加、図書館での朗読会に参加している。 地域での行事・活動等に目を向け、参加の機会を増やし地元の方との交流を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症者への対応相談、デイサービスの実施。実習生、研修生、ボランティアの受け入れは出来ており、実施されている。 湯河原町と緊急時協力協定締結。(緊急時地域の避難場所として受け入れ体制は整っている)		短期利用実施に向け検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を職員周知しており自己評価には複数の職員が参加している。又、評価結果をサービスに活かせるよう誰もが確認できるばしょに掲示し、入居の際ご家族に参考として評価表を提示している。		指摘を真摯に受け止め、全体会議、ユニット会議にて話し合い改善に努めている。又、家族会等にて報告しご家族の意見も取り入れサービスの質の向上に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて、ご利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いをおこない、ご家族、地域の代表の方、行政の方からの意見を真摯に受け止め、取り入れるよう努めている。		会議録を各ユニットへ回覧し、職員周知している。必要があれば会議にて意見交換を行っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所連絡会に出席し情報交換を行っている。又、市町村担当者と密に連絡を取り合い連携に努めている。		事業所連絡会や役場との連携情報を基にサービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加している。		研修報告書にて回覧し職員周知している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。又、ユニット会議等にてご利用者の状況について話し合っている。		研修報告書にて回覧し職員周知している。例にないが、学ぶ機会を作ることにより、身体的、性的、心理的虐待、ネグレクト防止に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約については、入居契約書・重要事項説明書に基づき十分な説明を行い理解・納得の上行っている。</p>	<p>ご利用者・ご家族の疑問点や不安にも配慮している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者からの意見、不満、苦情等いつでも聴けるよう心掛けており、それらをユニット会議・全体会議にて職員へ、運営推進会議等にて外部へ報告しアドバイスを受けている。</p>	<p>意見を基にご利用者に満足した生活を送っていただけるよう努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者の暮らしの様子は毎月の手紙にてお知らせし、健康状態等変わったことがあれば、その都度電話連絡している。金銭管理に関しては、毎月預かり金の出納帳と領収書を送付している。</p>	<p>職員の移動、新入職員の紹介等行っていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの意見、不満、苦情等いつでも聴けるよう心掛けており、それらをユニット会議・全体会議にて職員へ、運営推進会議等にて外部へ報告しアドバイスを受けている。</p>	<p>家族会にて意見交換の場を設けている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議・ユニット会議にて意見交換を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診時等の職員の確保に努めている。</p>	<p>緊急時職員の補充が出来る仕組みがある。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう、離職や新入職員入職時等タイミングを図り最小限に抑えている。</p>	<p>離職者を出さないよう職員間のコミュニケーションを図りたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会や勉強会への参加。地域の病院主催による勉強会への参加により、交流・勉強の機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		同業者とのネットワークづくりに繋がりたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間での食事会や他センターとの親睦会を行っている。又、本社にて、職員の悩みを聴く「メンタル相談室」がある。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の力量、得意・不得意を把握し、その職員に合った役割を決め向上心を持って働けるよう心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族相談時、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、必要としている支援を見極め、他のサービスの利用を勧める場合もある。		行政・他サービス事業所との連携を図る。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や職員にてご利用者の状況を十分把握し配慮を行う。又、将来的に入居希望の方に関しては、徐々に馴染めるようデイサービスを勧めたりもしている。		体験入居からの入居やデイサービス利用からの入居に加え、短期利用からの入居も検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法、味付け等ご利用者より教えて頂くことも多々ある。職員に労いや、感謝の言葉をかけてくださり癒される。		利用者一人ひとりの趣味や、得意とすることを把握し学んだり、何か出来た時には一緒に喜び、お手伝いして頂いた時には感謝している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時ご本人と外食されるご家族やご本人の好きなお赤飯を炊いて持ってきてくださる家族もある。又、行事(納涼祭やクリスマス会等)と一緒に楽しんでもらっている。		行事開催時ご家族へ案内を送付している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話や、面会、ご家族との外出、外食等行っている。又、月に1度「そよ風だより」にてご利用者の様子や写真を送付している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの電話や面会があり、なごめる様な雰囲気づくりに配慮している。		関係が途切れない様支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者の誕生会を皆さんで祝ったり、行事開催にて利用者同士の交流を深めている。		仲の良い入居者同士が過せる配慮、孤立しがちな入居者がくわわれる機会をつくる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もご家族や関係者との情報交換はいつでもできる体制にあり、退去後ご親切にも衣類等使って欲しいと送ってくださる家族もある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との会話の中から、その方の思いや希望を汲み取れるよう努めている。		個々の趣味等把握し、暮らしの中に取り入れられるよう援助していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	朝食はパンを希望される方の対応。朝はゆっくり寝ていたいという方は起きてきてから召し上がっていただく等その方の生活スタイルを大切に考えている。		ご家族からも情報が得られるよう心がけたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録や申し送りノート、口頭での申し送りにて把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見、希望等を取り入れた、プランづくりを心掛けている。又、ユニット会議にて職員の意見も取り入れより良いものとなるよう努めている。		カーデックスにプランを入れており、皆が周知できるようになっている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に変化があった場合は見直し新たな計画作成に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		入居者全員の個別記録。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新規入居希望者に関しては、ご本人や家族の状況、要望に応じて、デイサービス利用より入居に繋げる場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ、消防による防災訓練や救急救命講習実施。ご本人の希望にて、図書館の利用や朗読会に参加している。		ご利用者一人ひとりの意向や必要性を把握し、適した地域の機関を利用していきたい。又、地域の方のボランティアも受け入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向や必要性に応じて、他のサービスを勧める場合もある。		CM連絡会に出席。地域の他のケアマネや事業所との連携を図る。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議開催時、地域包括支援センター担当者出席され、情報交換行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族に連絡相談し家族の了解の下、受診等の対応をしている。		定期受診の際、ご家族との情報の共有。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に認知症専門医に受診しており、医師の携帯にいつでも連絡相談できるよう連携を図っている。		個別受診記録に記録し周知している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師に相談し、指示を仰いでいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当の看護師やMSWとの情報交換に努め早期退院できるよう、又、担当医師より状態や退院後の指示を上げるよう努めている。		ご利用者が安心できるよう、職員にて面会に行き様子をうかがったり、必要なものがあれば、お持ちするようになっている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	例にない。		今後検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	例にないが、研修等には参加している。		グループホームでの終末期を希望される方もいらっしゃるため、今後「グループホームでの終末期のあり方」について、検討していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人、ご家族及び関係者にて集まり十分な情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者一人ひとりの違いを認識しその方に合った言葉かけ、介助を行っている。又、人格を尊重する言葉遣いや態度で接するよう心掛けている。</p>	<p>研修に参加。接遇マニュアルの周知。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたり自己決定の支援を行っている。</p>	<p>外出等も個人の希望を伺い、個別対応していかれるよう体制を整えていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者のペースにて暮らせるよう心掛けている。例えば、朝ゆっくり寝たい方に関しては起きてから朝食を召し上がっていただいたり配慮している。</p>	<p>ご自身の希望等声に出して、おっしゃれない方もいるので、職員による気づきが必要。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご利用者一人ひとりの希望に合わせ美容院や床屋の予約、必要に応じて送迎を行っている。又、3ヶ月に1度訪問理美容があり、利用される方もいる。</p>	<p>認知症であっても理美容院が利用できるよう連携を図りたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は、ご利用者と同じテーブルに座り同じ食事を団欒し食べている。又、ご利用者一人ひとりの特技や能力に合った役割が自然にできており楽しみの一つとなっている。</p>	<p>ご利用者の好き嫌いを把握し配慮している。又、噛めない方には軟らかい物や刻んでお出しする。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>主に誕生会・季節の行事の際、ビールや日本酒を召し上がって頂いているが普段より希望時は対応している。</p>	<p>飲酒・たばこについては、主治医の意向や助言を得て健康に差し支えない様心掛けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて排泄チェックを毎日行いご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し前誘導を行う等配慮し自立支援を行っている。		夜間ご本人の希望によりオムツ使用者がありますが、ポータブルトイレ使用により短時間ではずしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週1度の消毒日以外、毎日行っている。入浴の時間帯、入浴時間の長さ、温度等ご利用者の意向や希望を確認している。		入浴を好まない方への対応、工夫。 入浴時好みのシャンプーを使用している方もいる。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間記録にて、睡眠状態を把握している。日中散歩に出掛けたり、掃除、洗濯等その方にあわせた生活のリズムづくりのアプローチをしている。		寝付けない方には、温かい飲み物を飲みながらしばらくお話しする等している。 眠剤服用者もあり、眠剤のあり方について検討したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、農業をやっていた方には畑仕事や園芸に参加する機会を作り、美容師の方には職員の髪を切ったり、結う機会を作っている。		入居者一人ひとりの希望を取り入れ支援していけるよう心掛ける。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、買い物の際は職員と確認しながら支払をする場面もある。		自己管理されている方同士の金銭トラブルに繋がらないよう支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者一人ひとりの希望に応じて散歩、ドライブ、買い物に行けるよう支援している。		シフトにて職員確保し、利用者全員での外出や個別外出等の希望に沿えるよう支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地元の祭りや、花火、菊花展など季節の催し物に参加している。		一人でも多くの方が参加できるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度手紙(そよ風だより)にて日常の様子を伝え写真を添えて郵送している。電話も家族や知人等よりかかってきたり、かけたりしている。		月に1度家族へ送る手紙に、ご利用者に一言書いて頂いたり、レクにて作った作品(ぬりえ等)も一緒に送るよう取り組んでいく。又季節の絵手紙を、レクに取り入れ送るようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、明るく笑顔で対応している。又、イベント開催時には招待状を出し訪問していただけるよう心がけている。		訪問時が食事時の際、訪問者の希望によりご利用者と一緒に食事をとる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行わないことをすべての職員が認識しており実践している。		研修等により、拘束のないケアについて把握する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由で心理的に圧迫しないよう日中は、出入りに鍵をかける配慮をしている。玄関はオートロックとなっているが、ご利用者が開ける事は可能。又、鍵をかける場合は、その根拠が明白で、理由を家族に説明している。		外出の察知、近所の理解・協力促進
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は申し送り等にて、ご利用者一人ひとりを把握し、常に見守りやすい場所において、ご利用者の位置と様子を把握している。(ご利用者の側での記録、ご利用者の様子がわかる調理・配膳場所等)		常にご利用者に相対し、一人ひとりの様子を把握できる位置を考える。職員同士の声掛けの徹底。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の要注意物品には、保管場所、管理方法を取り決め、危険物取り扱いマニュアルにて実行している。		レク時のはさみや、調理の際包丁は、職員見守りの下使用していただく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ユニット会議等で、ご利用者一人ひとりの様子や気づいた事を話し合い事故防止に取り組んでいる。誤薬防止については、必ず複数の職員にて確認し服用していただいている。		事故が起きた際、事故報告書作成し回覧にて全職員が周知し再発防止に取り組んでいる。又、家族にはその都度報告している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の手当要領を外部研修で、複数職員が受講している。マニュアルに基づき内部研修を複数の職員にて実施している。		2月に消防署による救命技能訓練を、当施設にて実施予定。研修会や緊急時対応マニュアルにて、職員周知している。又、緊急時対応連絡表を掲示している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練の実施。又、地域の諸施設の理解や協力が得られるよう働きかけている。		湯河原町と緊急時協力協定を締結。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居契約時ご家族にリスクについて説明している。又、面会時の声かけや家族会開催等いつでも家族が意見や希望が言えるよう働きかけている。		定期的にご家族と連絡を取ったり、ゆっくり話が出来る環境をつくっていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	相談できる医療従事者(医師、看護師、MSW等)がおり、連携をとっている。又、提携クリニックの医師の携帯番号を周知しており、緊急時の指示を仰げるようになっている。		毎月定期受診施行。バイタルチェック毎日施行し、申し送りや朝礼にて、一人ひとりの健康状態が把握できる。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにより、誤薬防止・副作用の把握確認に努めている。		薬の説明書を個人の薬箱に貼付している。コピーをクリアファイルに入れすぐに確認できる場所に設置したい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた食事の提供。毎日、水分摂取量や排泄チェックを行っており便秘がちの方には食物繊維の多い食事や飲み物を提供している。又、運動や入浴時腹部マッサージを行っている。		お年寄りの水分摂取が難しい為、工夫が必要。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		口腔ケア研修。 自立にて口腔ケアを行っている方の職員による磨き残し等の確認。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量、水分摂取量を把握し記録している。本部より管理栄養士にて作成された献立表が365日送られてきており、バランスの摂れた食事を提供している。		1日の水分摂取量の管理を行っており不足の時は、その都度ゼリー摂取等により必要量を補い確保している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい手洗いの徹底実施。水虫ができてしまった方には、最後の入浴として、ヒビテンにて足浴等実施している。又、毎年インフルエンザ予防接種施行。		感染症対策マニュアルの把握・研修参加
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルがあり実行している。		キッチン内の衛生管理を保持している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に、他ユニットご利用者が愛用していたピアノを寄付して下さり置いている。		地域の方がピアノを弾きに時々来てくださる。今後も地域の方が訪れ安いよう心掛けたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には他ユニットご利用者が描かれた絵画、廊下の掲示板にはご利用者の作品等飾っている。又、ご家族から寄付していただいた人形なども飾っている。音や光の配慮はご利用者に確認しながら職員にて行っている。		季節感を採り入れたカレンダー等を作りリビングに飾っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ピロティーや中庭のベンチにて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		入居者同士で自由に過ごせる場所の確保。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、居室の小物等、大切にしている物を持ってきていただいている。仏壇を置かれている方もおり、出来るだけ元の生活を大切に暮らしていただけるよう配慮している。		ご利用者の意見を中心に、ご家族と相談しながらより良い環境作りをしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンでの温度調節をはじめ、居室の換気、清掃は毎日行っている。		乾燥時期の湿度調節の為、ご本人、ご家族確認し各居室に加湿器を設置させて頂き、体調管理に努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンにはIH使用し、安全を考えている。廊下(トイレ・浴槽・脱衣所等)には手すりが設置されており、手すりを使い歩行している方もいる。又、段差はなく、つまづく危険性は少ない。		ご利用者の動線を確保し危険を出来るだけ減らす。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	調理のお手伝いや、食後のお膳を下げられる方には下げて頂いたり、洗濯物を干したりたんで頂いたり、一人ひとり出来る事をして頂いている。又、一人で出来ない事も職員と共にしている。		職員は何でも手を貸してしまわず、ご利用者の「出来る事、出来そうなこと」を把握し援助・声かけを行う。一人で出来ることを把握する仕組みを作りたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて洗濯物をご利用者と共に干している。建物の周りには草木、花を植えており、季節ごとに咲く花などを見て、楽しまれている。庭ではトマト、キュウリなどを栽培しており、皆で収穫している。		花をもっとたくさん植え、外に見に行くことや世話をすることを楽しみの一つと考えていただける様援助したい。野菜も毎年作り、世話や収穫を皆で楽しみたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達職員一人ひとりが、暮らしたいと思えるグループホームとなるよう心がけ、ご利用者と関わっていきたい。